

平成29年度 第2回小牧市児童館運営委員会会議録

日時	平成30年2月8日 木曜日 14時～16時	
場所	小牧児童館 多目的室	
参加者	運営委員	永井勝彦、丹羽三枝子、船橋由美、増田直美、山岸伊久美、大野幸佳
	事務局	小塚部長、櫻井次長、永井課長、松永主幹、 児童センター:清水センター長、味岡児童館:野地館長、篠岡児童館:岩井館長、小牧児童館:波多野館長、小牧南児童館:渡辺館長、北里児童館:水野館長、西部児童館:芦田館長、大城児童館:坪井館長、小川
欠席者	運営委員	田中佳子、沖本喜久江、東谷昌子、吉原文子
傍聴人	なし	
司会	委員の皆様方には、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。ただ今より、平成29年度第2回小牧市児童館運営委員会を開催させていただきます。この会議は公開となっておりますが、ただいまのところ傍聴者はおみえになりません。 それでは、はじめに、こども未来部長の小塚よりご挨拶を申し上げます。	
こども未来部長	ただいまご紹介いただきました部長の小塚でございます。本日はご多忙にもかかわらず、第2回小牧市児童館運営委員会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、皆様方には本市の教育・福祉行政の推進に日頃より格別のご支援・ご協力をいただき、改めて厚くお礼を申し上げます。 さて、昨今の社会情勢を見ますと、いじめ、虐待、さらには児童に対する殺傷事件等、こどもを取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。こうした状況の中、学校へ行けなかったこどもが児童館へ来て過ごしたという話を聞いたり、子育て支援室への相談の内容を見ていたりすると、地域の中で児童館の役割は非常に大きいものがあると感じます。 本日は、児童館における活動、求められる役割について、委員の皆様にご意見をいただければと思っております。よろしくお願ひします。	
司会	ありがとうございました。 続きまして、永井委員長よりご挨拶を頂きたいと思ひます。	
委員長	今日の委員会は今年度2回目ということで、それぞれの児童館で29年度に行なった活動の報告と、利用者アンケートの報告、そして来年度に向けた計画と進んでいきます。本日は皆様よろしくお願ひします。	
司会	それでは、早速、次第に従ひまして報告事項から始めさせていただきます。 (1) 平成29年度児童館の現状報告について (2) 平成29年度児童館・子育て支援室利用状況について を一括で報告させていただきます。最初に、児童館の現状報告から順に行ないます。	
児童センター長	(資料1) 「子育て支援で広がる話(わ)」 「子育て講座で高めあう我(わ)」 「遊びを通してつながる和(わ)」 「29年度の取組みについて」 この4つについて話をさせていただきます。 最初に「子育て支援で広がる話(わ)」ですが、自分が育った地域とは違う場所で育児をされている方、小さいこどもと触れ合うことがなく親になっ	

た方など、様々来館されます。そうした保護者が負担なく育児ができるよう、親子で安心して遊べる場の提供や、親子で楽しめる講座があります。こどもを通じて、保護者同士の繋がり（わ）＝コミュニケーションが広がるようにしています。

2番目は、「子育て講座で高めあう我（わ）」です。小さいお子さんがいると落ち着いて講座を聞くことが難しいです。そのため、託児ボランティアをお願いし、講座を受講していただいています。9月にプラネタリウムで、「子育てトーク&星空ライブ」という内容で星空の映像を見ながら、子育ての話と、バイオリン・キーボードの生演奏を聞きました。参加者からは、良い時間を過ごすことができたという好評でした。10月には、「ママもこどもも笑顔になれる、子育てのスキルを学びあう」、11月には、「こどもの体作り～ママも一緒に健康に～」を開催しました。このように、今の自分よりステップアップすることや自分磨きを目標に、子育てに関する講座を提供しています。

3番目は、「遊びを通してつながる和（わ）」です。児童センターには近隣の小学生が中心に来館します。学校の違う子、学年の違う子様々ですが、職員が仲立ちとなって、こどもたちがつながるよう、見守っています。知らない子同士でもゲームをしたり、違った学校の子とも遊んだり、そんなつながりができていくといいと考えています。

以上、「コミュニケーションの話（わ）」、「自分磨きの我（わ）」、「つながりの和（わ）」この3つのわをつなげ、大きなわにすることが児童センターだと考えます。それぞれのわを大切にしながら、みんなが集える場となるよう努めていきたいと思っています。

最後に、「29年度の取組み～こどもの主体性を大切に～」についてです。児童センターで何がしたいかは、こどもスタッフ次第です。「してみたいことをみんなで話し合って決めよう」という呼びかけで募集しました。18名の小学生が参加してくれ、1年間色々な遊びを企画しました。高学年中心に進む中で、低学年の子も自分の考えを言えるようになりつつあります。写真は、「何がしたい？」という職員の問いかけに、「動物園へ遠足！」とこどもたちが言い出し、遠足ごっこを行なったときのものです。今年度、こどもたちの主体性を大切に進めてきました。次年度も継続してこどもスタッフを希望する子も多く、30年度もこどもスタッフとともに楽しい企画を計画したいと思っています。

味岡児童館長

味岡児童館は5つの理念で運営しています。

その中の一つ「地域ぐるみで育ち合う児童館」では、年3回、地域有識者ととともに地域運営協議会を開催しております。また、サマーフェスティバルや開館5周年記念といった大きな行事から、日々の読み聞かせや工作まで、日頃からこどもたちの育ちを応援してくださるサポーターと一緒に、連携を取っています。ネットワークの強さは、味岡児童館の特色でもあると思っております。また、各学校とも連携をし、音楽や美術といった中高生が活躍する機会を設けています。中高生の居場所の一つとなれるよう、ギター講座も開催しました。

「多世代で育ち合う子育て支援」においては、今年度も音楽や英語など、親子で参加できる講座を開催し、好評を得ています。支援室では、育児で孤独になりがちな親子を温かく迎え入れています。支援員だけではなく、先輩ママ達も、同じように育児をする仲間として、支え合う様子も見受けられます。

今年度も味岡児童館は、多世代に渡り多くの方に利用していただいております。それぞれのニーズに応じた、安心して過ごせる児童館として、コミュニケーションと繋がりを大切に運営を進めていき、29年度の目標である「地

篠岡児童館長

域の輪、友達の輪を広げよう」を意識しながら活動をしております。

平成29年度の篠岡児童館は「児童館で遊ぼう・楽しもう」「地域と共に育ち合う児童館」をテーマとして、次の5つの理念に基づく運営を行なってきました。

まず、「地域ぐるみで育ち合う児童館」として、地域運営協議会において現況報告や意見交換を行ない、来館者へのきめ細かい理解や情報共有が得られました。児童館まつりや肝だめし等のイベントへも、地域のおやじの会やサポーターの大きな協力をいただいています。また、1月の地域カルタを活用したカルタ大会では、小中学生が遊びを通じて地域資源を学ぶ良い機会になりました。

次に、「多世代で育ち合う子育て支援」として、毎月の英語や楽器などの講座のほか、今年度は赤ちゃんサロンを週2回に増やし、お母さん同士の交流をサポートしています。ベビーマッサージや産後ヨガに初参加の方も、その後引き続き来館していただき、「子育て支援員に相談しやすく嬉しい」との声を頂いています。

3つ目に、「中高生が集い使える児童館」として、特にテスト期間中の学習室利用の定着してきています。また、ジュニア奉仕団や中学生ボランティアが児童館のイベントに積極的に参加し、活躍しています。先日の吹奏楽部の中学生たちによるニューイヤークンサートでも、友人や先輩後輩の中高生が大勢来館してくれました。

4つ目の「多文化共生」としては、ポルトガル語とスペイン語版の館便りを発行し、外国籍の親子へ情報を届けています。また、「インターナショナルあそび」という講座では、日系ブラジル人の職員が小学生向けの工作を指導しており、独特のセンスや色使いで女子を中心に人気があります。

5つ目の「社会教育」では、小学生が保護者から離れて体験する料理コーナー「キッチンキッズ」や、工作講座「クラフトルーム」などを実施しています。また、人形劇やコンサートでは、「児童館で行なうからこそ、小さなこどもを気兼ねなく連れて来ることができる」と好評でした。さらに29年度は2つの中学校からの職業人体験学習受け入れ、中学生たちがそれぞれに児童館で働くことへの気づきや視点を獲得していたようです。

最後にその他として、「館庭が広くて様々な遊具がある」と高評価をいただく館庭のメリットを活かし、一輪車をはじめ、館庭での遊びを、危険のないよう気を配りながら見守っています。また、子育て支援室の環境整備が進み、支援室の利用者数が昨年度より増加しています。

小牧児童館長

小牧児童館は「あそびを通して仲間の大切さを知る」「友だちと輪を広げ楽しく遊ぶ」「楽しく過ごしていただける居場所づくり」を目標に運営しています。

子育て支援室の中では、毎日ママ達の賑やかな笑い声が聞こえてきます。いつでも子育てママを向かえられるよう、また日に何度でも来ていただけるよう、家庭的な雰囲気づくりを職員は日々心がけています。最近ではパパ達の姿も多く見られるようになりました。

ママと一緒にできる簡単パン作りや、育児の疲れを少しでも取り除き、気分をスッキリさせるためのリフレッシュ講座などの支援室講座を設けています。2回に分けての講座にも関わらず、牛乳パックで作るアンパンマンのイス作りには参加者のママ達に大変喜ばれました。いずれも講師は支援室のママ達や職員で行なっています。

「地域との連携」では、近隣のレイモンド保育園との交流をはかり、入園式や誕生日会など数々の行事に利用していただいています。

3地区合同消防訓練も定着してきました。終了後には、非常食米の配布と

試食をしていただき、いつ起きてもおかしくないといわれる災害に備えて、今年には防災資機材を使い訓練を実施しました。

「遊びを通しての仲間づくり」は、家族で協力する活動も行いました。夏体験では、空き缶を利用してご飯を炊いたり、炭でパンを焼いたり、それぞれが役割分担を決めて行いました。普段とは違うお父さんの姿も見られました。

「児童館独自の遊び」では、友だちと一緒に館内をまわり、問題から答えを探し当てる「みなくるミッケ」が小学生に人気です。また、支援室のおもちゃに飽きてしまった幼児親子向けの「プチミッケ」は、毎日絵と場所が変わるため、館内を母親と一緒に探し、「ことばあそび」を楽しんでいます。

このように、幼児親子から小学生がいつ来ても楽しく遊べるよう、これからも遊びを通し子ども達と関わっていきたいと思います。

小牧南児童館長

小牧南児童館は、ふらっとみなみ、南部コミュニティセンターとの複合施設で、イベント等の開催時には、ふらっとみなみの講堂を多く活用しています。また、「夏まつり」「三世代&ハロウィン仮装大会」「音楽祭&クリスマス会」等のふらっとみなみ運営協議会との共催イベントで、地域の様々な世代の方々と交流を深めています。

登録制のクラブ活動（母と子、運動遊び、体育あそび）では、登録された親子児童が毎回元気に参加しています。母と子クラブは、水曜日クラス、木曜日クラスともに20組の親子が毎回楽しく活動されています。来年度においてもより充実した時間となるよう、努めて参りたいと思っています。

子育て支援室については、毎週水曜日にのびのびルームを実施し、母親同士のふれあいの場を提供したり、子育てに関する情報の紹介をしたりしています。今後も子育て中の母親への支援を進めていきたいと考えています。

自由来館者は1日平均100～200名程度で、今年度の特徴としては、中高生の利用が増加していることがあげられます。主に卓球で遊んでいます。ときには幼児や小学生とこま回し、けん玉などで遊ぶ姿も見られます。また、多くの子が学習の合間の息抜きに児童館スペースを有効活用しています。

これからも、引き続き中高生の居場所作りと、児童館の各種活動を通じて児童の健全育成の場を提供します。また、子育て支援に努めるとともに、地域に親しまれるより安全な児童館を目指して参ります。

北里児童館長

「遊びを通して仲間作りを。地域との繋がりを大切に。」をモットーに1年間頑張ってきました。ルールのある遊びを通して、異年齢の関わりに重点を置いて頑張っています。子ども達も思いやる気持ちが育ってきていると実感しています。

児童館での「毎月の工作」「毎月の遊び」の企画は職員が新しい物を作るようにしています。月初めには「今月はなに？」と楽しみに来館している姿があります。「夏祭り」と「こどもだって忘年会」は終業式の午後から開催しています。継続して、定着するよう、続けていきたいと思っています。

昨今ゲーム機を持っていない子どもの方が少ないようですが、児童館では、アナログで遊ぶことが新鮮になっています。愛知県児童総合センターの企画に参加させて頂き、3月には育メンキュレーターとしてボードゲームの企画もあります。父親と子どもが向き合って遊ぶきっかけにもなり、提供ができればと思っています。

保護者から、「家庭の姿や学校の姿は把握できているが、児童館での姿はどうですか？」との声をよくいただきます。児童館では家庭と学校以外の姿を職員に見せてくれますので、参観日を設けて、保護者に児童館での姿も見えていただいております。

支援室の利用者は「ホッとしに来た」「家でこどもと2人だと息が詰まってしまう」と言いながら来館されます。児童館でゆっくりして、元気になって帰っていただけるようにしています。支援員と話すことで安心され、悩みになる前に解決していただき、段々、相談件数は減ってきています。同じ月齢、同じ学年を意識して関わっていただけるようにママ達を紹介したり、ママ達のニーズに応えていこうと思っています。

前回の運営委員会で児童館の周知方法について、課題を頂きました。地域の方と、館だよりについて話をさせて頂く機会もありました。館だよりは区長様にお力添えを頂き、新たにこども会に毎月200枚の配布が増えました。地域の皆様に利用して頂き、北里地区の居場所になっていくよう頑張っていこうと思っています。最近では広報を見た、館だよりを見た、ブログを見たといろいろな媒体をきっかけに利用者が増えています。

北里市民センターの施設を利用させていただき、クラブ活動、行事など盛大に開催させていただいています。避難、消防訓練も一緒にさせて頂いております。

父母クラブでは親同士の交流ということで、今年度は「陶芸」「リース作り」をしました。親が学ぶ講座「親業」のときは、こども達が地域・学校・学年を超えて遊ぶことのできる企画を同時開催しました。こどもだけではなく、地域の方との関わりにも工夫をして、居場所になればと思っています。

今後の課題としては中学生の居場所として、学習スペースがない北里児童館の中でどのように工夫していくかです。ジュニア奉仕団や中学生の意見を聞き、要望に応えられるよう課題として取り組んでいきたいと思っております。

西部児童館長

西部児童館では「来た人が笑顔になれる児童館」をキーワードに、西部コミュニティセンター複合施設として、施設の特徴を生かした取組みを行ってきました。おかげをもちまして、少しずつではありますが、利用者も増加しております。

乳幼児親子の子育て支援として、今年度から月に1度ハーフバースデーを企画し、6ヶ月のお子さんとお保護者の方の来館のきっかけになるよう取り組みました。回数を重ねる度に参加者が増加し、現在ではその他の広場を超える人気の行事となっています。また、西部としては今年度初めて「親業子育てサポート講座」を開催し、日常の児童館とはまた違った角度からの親支援にも取り組みました。まだ参加者も少なく課題もありましたが、次年度以降に繋げていきたいと考えています。

児童の健全育成としては、日常的な取組みの他に、施設ボランティアとしてのこどもプランナーの取組みがあります。昨年度組織化し、今年度はさらに組織的で自主的な活動の充実を図ることができました。月2回の話し合いの中で、行事の企画、準備を話し合い、いくつかのイベントではその企画の担当として活躍してもらいました。

そして何より日常の中で、運営協議会をはじめ、地域の皆様とのつながりを大切にしています。今年度は地域の防災イベントも企画し、恒例行事の継続だけではなく、新規事業にも取り組んでいけるよう、連携を深めています。

今後も引き続き地域との連携を図りながら、地域のみなさまにとってよりよい施設になるよう、努めてまいります。

大城児童館長

大城児童館は9年目の指定管理でやらせていただいています。地域運営を掲げて、今年度も「地域みんなで、楽しさのシェアリング」を目標に、5つの理念を元に展開してきました。

「地域ぐるみでの運営」では地域運営協議会を設置しておりまして、区長さんをはじめ地域有識者、学校関係者、行政、指定管理者とともに計画について様々な議論をしております。地域運営として児童館を運営してきた効果と

して、顔の見える人間関係、サポーター作り、祭りなどの行事での若いお母さん方の参加、学校との連携、子育てのネットワーク作り、として現れてきています。

「子育て支援」もとても人気で、常時2名の支援員を配置しております。お母さんたちの不安に寄り添いながら小さなことでも話しやすいように声をかけています。最近では他市からの利用者も増えており、リピーターとして来ていただいています。

また、家族で来やすいように土日にも講座を企画しています。その中でイングリッシュ講座は講師の先生も人気になり、こどもたちも英語で少しの会話ならできるようになってきました。

「中高生の居場所」としても夜9時まで受験勉強などで利用してもらっています。できるだけ色んな活動ができる健全育成の場を目指しています。音楽室では音楽やダンスを練習など、中高生にたくさん利用してもらっています。

「多文化共生」については、最近では母語教育に力を入れています。毎週開催されるポルトガル教室では地域の日系ブラジル人の方に自分たちのお家のように使ってもらえる様子があります。

「社会教育の展開」の中では色んなイベントを通じて、地域の方に助けてもらっています。おもちゃつきや、10月11月のバンブーインスタレーション、また12月のクリスマスコンサートでは地域の方の紹介でビッグバンドにきてもらいました。さらに中学校の吹奏楽部に今年も来てもらい演奏してもらいました。

このように、笑顔を分かち合えるように、楽しさをシェアリングできるように、今年度も運営させていただいております。

児童センター長

(資料2)

続いて平成29年度の児童館利用状況について報告します。表の上段は29年度の12月までの数字、下段は28年度1年間の数字となっています。また、左側の「個人任意利用者数」は来館された人数で、右側の「集団指導等利用者数」は、クラブや講座に参加された人数、又は工作や手芸など職員が関わって指導した人数です。

「個人任意利用者数」は前年度と比べて増減はそれぞれの児童館で異なりますが、全館合計で28年度は月平均26,282人、29年度は26,397人となりまして、全体としては増加傾向にあります。

次に、支援センター・支援室の利用状況について説明します。同じように、表の上段は29年度の12月までの数字、下段は28年度1年間の数字となっています。28年度は月平均18,184人、29年度は17,443人で、働く女性が増えているのかやや減少しています。支援センター・支援室でゆったりと過ごされる親子を見ていると、親子で安心して遊べる場所として、支援センター・支援室の役割は大きいものがあると感じています。

司会

ただ今、(1)平成29年度児童館現状報告について、(2)平成29年度児童館・子育て支援室利用状況について、一括して説明がありました。これについて、ご質問等はありませんか？

委員長

各児童館の活動をお聞きしていて、どの館も共通して「自主的」「主体的」というキーワードが出てきました。文科省の新しい学習指導要領でも主体的で対話的な深い学びというものを打ち出しています。児童館もそれに添う形でやっていただいているなと思います。

また「寄り添う」という言葉も出てきましたが、こどもや保護者と一緒になって自然に活動を展開している点はとてもありがたいと思います。

特に区長さんの協力など地域との広がりという点では、来年度、小牧市教育委員会が進めているコミュニティスクールという考えに合致しているなどと思います。地域の中の児童館として運営していただいているなど感じました。館長先生方の中には既に学校評議員として関わっている方もいるかもしれませんが、今後コミュニティスクールの委員として依頼があるかもしれないのでその時はよろしくお願いします。

一点、先日児童館で中学生のいじめにつながるトラブルがあったと聞きました。児童館では親切に対応していただいたということで、関係中学校へも連絡し、解決の方向に向かっていきます。一部やんちゃな子もいますのでご迷惑おかけすることもあるかと思えます。そんな時は少年センターも活用してください。

司会

続きまして、(3) 児童館利用者アンケートについて、事務局より報告を致します。

小川

(資料3)

児童館利用者アンケートについて、報告をさせていただきます。指定管理者制度を導入しています児童館においては年2回のモニタリングを義務付けておりますが、全館共通様式を使用したアンケートによるモニタリングを年1回実施することで、各館利用者の満足度を比較することができ、児童館運営の質の向上に努めることを目的に実施しております。アンケートは児童館を利用する児童及び保護者を対象として、小学生、中学生以上、保護者の区分に分けて、平成29年10月23日から11月22日までの期間で、市内全8館で実施いたしました。

小学生を対象にした集計結果につきましては、資料の12ページ、中学生以上は13ページ、保護者対象は14、15ページに資料としてお付けいたしました。小学生405人、中学生以上302人、保護者405人から回答をいただきました。

総評といたしましては、12ページの小学生アンケートでは質問4、5、6においては多少減少がありましたが、昨年と比べて大きくは変わらず、質問1の「児童館は楽しいですか？」では9割以上のお子さんから楽しいという回答をいただきました。

13ページの中学生以上のアンケートでは質問4の「児童館で地域のボランティアの人と、一緒に活動する機会はありますか？」で昨年度より8.7%低くなりました。地域の方にはイベント等でたくさん応援を頂いていますので、こどもたちにももっと知ってもらえるようにしていきたいと思えます。

14ページの保護者用のアンケートでも概ね満足していただいておりますが、質問6の「児童館は衛生に配慮されていますか？」でいいえと回答した方の理由として、トイレの衛生面やおもちゃの管理などを心配する意見がありました。

15ページの、「児童館を利用して思うことを記入してください。」という質問に対しては、非常に多くの自由意見をいただきました。児童館に対する良い意見が多く、「あなたにとって児童館はどんな場所ですか？」と重なる意見が多いことや、アンケート結果の数字からも児童館に対する高い満足度がうかがえるため、こちらの「児童館を利用して思うこと」には、よい意見ではなく、苦情・要望等のみを載せています。

これらの意見を今後の児童館運営の参考にしていき、取り入れられるものは積極的に取り入れていきたいと考えています。

以上、簡単ではありますが、報告とさせていただきます。

司会

只今、児童館利用者アンケートについて報告がありました。これについて

	何かご意見・ご質問等がありますでしょうか。
増田委員	<p>14ページの、「女子トイレでおむつを替えていると、洋式トイレが閉じ込められるから」とはどういった意味ですか。</p> <p>また、15ページの「児童館を利用して思うことを記入してください」で「実際に三重県で事故がありました」とありますが、この部分の説明をお願いします。</p>
北里児童館長	<p>おむつ替えシートを使用しようとしてベッドを引き出すと、洋式トイレのドアのちょうど前にベッドが出てくるので、トイレを使用している最中におむつ替えをされると、トイレから出られないという状況になってしまいます。お声かけをしておりますが、今回このような意見をいただきましたので、今後場所の変更等も考えていきたいと思っております。</p>
小川	<p>三重県での事故は、おそらく川越町での事件のことではないかと思っております。7月頃女の子が駐車場で轢かれ、そのまま犯人は逃げたということがあったようです。小牧児童館も道路に面していて危ないので、そのことを懸念されてご意見いただいたのだと思っております。</p>
司会	<p>それでは、議事に移らせていただきます。</p> <p>議事の進行は、永井委員長にお願いしたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。</p>
委員長	<p>それでは、議事に移ります。(1)平成30年度児童館活動方針・活動目標(案)について、事務局から申し上げます。</p>
児童センター長	<p>(資料4)</p> <p>活動目標の(1)に、「児童館活動がこどもの生活内容をより豊かにし、みんなと共に考えたり作ったりする創造や、仲間と楽しくあそぶ喜びを知る場になるよう、個別や集団へ積極的にかかわっていく」とあります。1人の子や、悩んでいる子もふらりと立ち寄れる場所が児童センター・児童館であり、寄り添える場所でありたいと考えています。</p> <p>次に、平成30年度市こども会連絡協議会との連携事業ですが、こまキッズフェスタを30年11月10日に、勤労センターで行なう予定です。</p>
委員長	<p>それでは、只今説明のあったことについて、委員の皆様からご質問やご意見はありますか。</p>
副委員長	<p>目指すこども像も活動目標も納得して聞いておりました。こまキッズフェスタもだいぶ定着してきました、ずいぶんにぎやかになってきたと感じております。今年度も各児童館、地域の方が協力して、大変盛り上がりおりました。一つの目標に向かってやっていくということは職員もこどもたちもとてもいきいきとしますので、今後もずっと続けて欲しいと思っております、この案に賛成します。</p>
大野委員	<p>上の子が小さい頃に比べて色々な行事が増えているなと思っておりました。これからはこまキッズフェスタに参加させていただきたいと思っております。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。原案通り承認されたことを確認します。</p> <p>それでは、(2)平成30年度児童館クラブ活動・行事計画(案)について事務局から説明をお願いします。</p>



児童センター長	<p>(資料5)</p> <p>クラブ活動は、共通の興味関心をもった子どもたちが集まって活動するものです。多少の変更はありますが、29年度と大きくは変わっていません。</p> <p>29年度は発達支援リトミックを児童センターで3回行ないましたが、参加者が減少傾向にあり、見直しをするため、30年度の開催はありません。</p> <p>続きまして、行事につきましても、29年度と大きく変わっていません。各館地域性を生かしながら、季節の行事や伝統行事を取り入れています。お月見、しめ縄作りなど、家庭ではあまり行なわれなくなった行事も大切にし、親子に参加してもらっています。児童センターについては、ラピオへの移転を考慮して、7・8月の行事は入れていません。</p>
委員長	<p>各児童館、なにか特別な行事で説明があればお願いします。</p> <p>また、委員さんで質問がありましたらお願いします。</p>
委員長	<p>児童センターのリトミックは行事計画には掲載があるようですが…。</p>
児童センター長	<p>支援が必要なお子さんが対象である発達支援リトミックがなくなり、親子リトミックは引き続き行ないます。</p>
山岸委員	<p>発達支援リトミックは、対象のお子さんの数が減少したのか、参加されるお子さんが減少したのか、どちらでしょうか。</p>
児童センター長	<p>支援が必要なお子さんの数はそんなに変わっていないと思います。参加される方が減少しました。</p>
永井課長	<p>お母さんが育てにくさを感じているお子さんというのは相談シート等を見ても非常に多いと思います。リトミックは参加されるととても楽しいと思いますが、参加するに至らない、またこちらもお声がけをしにくいというところがあります。お母さん方へのアプローチの仕方などもきちんと見直しをしたいと思いますので、一旦お休みをさせていただきます。また報告ができるように準備させていただきます。</p>
船橋委員	<p>地域性のある行事がたくさんで、良いと思いました。</p>
増田委員	<p>充実した行事の中で、西部児童館の中ではどれがお子さんに人気のある行事ですか。</p>
西部児童館館長	<p>こちらに記載のある行事は毎年恒例になりつつありますが、特に春と秋に開催される運動会、6月の親子でじゃがいも堀りは西部児童館の芝生広場と畑を利用した、西部ならではの行事です。普段は他の児童館を利用される方や、他市からも参加がある人気の行事となっております。</p>
委員長	<p>最近ショッピングセンターで、騒ぐ子どもにスマホを与えて静かにさせているお母さんを見ました。スマホを与えて育児をする姿に、コミュニケーションの取れない親子が生まれるのではと危惧しているのですが、児童館では子育てに悩む親子に対する講座等がありますか。</p>
児童センター長	<p>スマホのアプリも様々なものがあるようです。普段はそれらを利用している方も、支援センターに来ていただいている間は使わずに子どもに関わっていただくということを意識しています。</p> <p>スマホを長時間使わせるのは良くないですが、こどもの気分転換に少し使</p>

	<p>う程度なら、今のお母さんにとってはこどもとうまく関われる一つの方法として、良いのではないかという考え方もあります。</p> <p>子育てに関する講座は色々用意しています。お母さんの興味の湧く講座と、こちらの与えたい講座の兼ね合いを考えながら企画しています。</p>
副委員長	<p>産後ヨガについてお聞きします。何ヶ月から参加できるのですか。年6回ということですが、毎回メンバーは変わるのですか。</p>
味岡児童館長	<p>対象の子は2ヶ月～6ヶ月となっています。開催日に対象の月齢であるかどうかですので、うまくいくと3回参加できますが、月齢から外れると申し込みできないので、メンバーは毎回変わります。</p> <p>味岡、篠岡、大城で開催しています。</p>
副委員長	<p>こどもは託児ですか？</p>
味岡児童館長	<p>こどももお母さんと一緒に参加です。</p>
委員長	<p>続いて、(3)平成30年度児童館の子育て支援(案)に進みたいと思います。事務局よりお願いします。</p>
児童センター長	<p>(資料6)</p> <p>生後2ヶ月から対象のベビーマッサージや、1歳前後から就園までの子が対象のちびっこ広場など、各種教室があります。幼稚園や保育園など集団に入る前の乳児親子が参加し、こどもの社会性や発達を促したり、保護者同士が顔見知りになったりしています。こうした教室への参加を呼びかけ、親子で楽しい時間を過ごすようにしていただいています。</p> <p>30年度も、内容に大きく変更はありません。こどもの成長にとって必要と思われる読み聞かせやリトミックなどは継続して取り組んでいきます。</p>
委員長	<p>以上で説明が終わりましたので、委員の皆様から簡単に1人ずつお願いします。</p>
大野委員	<p>産後ヨガは、赤ちゃんも一緒にできるというのが良いなと思いました。</p> <p>スマホの話があったのですが、若いお母さんを見ていると、こどもにスマホを持たせているのをよく見ます。スマホ全てが悪いというわけではないと思いますので、例えばスマホを利用した講座があったりすると、スマホ世代のお母さんは参加がしやすいのではないかと思います。</p>
山岸委員	<p>児童館のアンケートで、「家の次に落ち着く場所」「助けてもらえる場所」という意見がありましたが、それに尽きると思います。29年度の報告からも、日々色々と考えてやってきたことが実っていると思いました。</p>
船橋委員	<p>私は放課後こども教室をやっているのですが、発達障害とまではいきませんが、そのような気があるお子さんに怪我をさせられた職員がいました。児童館では、そういった危ない思いをしたことはありますか。</p>
児童センター長	<p>支援が必要な子について、そのような思いをしたことはないです。</p> <p>他の児童館の先生はどうですか。</p>
委員長	<p>南児童館に来ていた中学生は最近どうなりましたか。</p>

南児童館館長	<p>その子は小学生の時、乱暴なことばかりするので、小学校と保護者と児童館で取り決めて児童館への出入りが禁止になっていました。最近では落ち着いてきたので、友達と遊びに来ることがあります。その子にとっても児童館は寄り所になっているので、遊びスペースには入ることはまだできませんが、職員が声をかけ、穏やかに過ごせるようにし、気の済むまで職員と話をして帰っていくというような様子です。</p> <p>私は危険な思いをしたことはありません。</p>
北里児童館館長	<p>北里児童館では、今のところ危険があったということはありません。今年度、発達障害でクラブに入りたいという子がいました。お母さんと話し合いをして、職員がフォローに入りながらクラブに参加しています。小学校では特別支援学級に決まったのですが、クラブに参加する中で、他の子と比べると成長がゆっくりだということをお母さん自身も気づききっかけとなり、うまく受け入れていただけたようです。「障害があっても児童館へ来ていいのだね」と言っただけ、今は下のお子さんも連れて来館されます。</p> <p>発達障害だからというわけではなく、児童館には分け隔てなく来館していただき、応援していきたいと思っております。</p>
委員長	<p>先生方には日頃から子どもたちのことを非常によく見ていただいています。以前北里の館長先生には、中3の男の子の性癖がおかしいということで気にかけていただき、トイレで女の子を襲う寸前であったところを止めてもらいました。また、児童センター長には、20歳過ぎの男性が中学生の女の子にちょっかいをかけているということで、少年センターへ事前に連絡をいただき、中学生を保護したということがありました。子どもたちのことを常に見ていただいて、危ないところを助けていただいています。</p>
増田委員	<p>話は戻りますが、先ほどのスマホの件で、子どもはお母さんに話しかけるのですが、お母さんはスマホゲームに夢中であまり反応してくれず、この先どうなってしまうのだろうと思った場面が私もありました。</p> <p>また、ペット社会になって久しいですが、最近では手のかからない猫が人気で、さらにはロボットなども出てきたこともあり、愛情や温かさがなくなってしまわないかと不安です。なので、児童館を活用していただける親子が増えると良いなと思いました。</p>
副委員長	<p>私たちが子育てをしていた頃は、子どもたちとままごとする時に何の役がしたいか聞くと、お母さんやお姉さんといった役を言いましたが、最近では犬や猫になりたいという子も多く、その理由として「ずっと何もやらなくていいから」と答えるそうです。そんな現実もあり不安になります。</p> <p>それぞれ地域の特色を生かし、地域に根ざした愛される児童館であると毎回実感しますが、利用者目線で考えていただいているところが愛される源だと思います。子育ての不安や悩みが軽減されて帰る姿を見ると本当に意義ある場所だと思います。</p> <p>アンケートでの味岡児童館への意見で、トイレの鍵を上の方にほしいという要望がありますが、このようなできることは応えてほしいと思います。</p>
委員長	<p>世代がまたがる行事や、インターナショナルあそびなど国籍を超えた行事が多くあり、良いなと思います。</p> <p>それでは、(2)平成30年度児童館クラブ活動・行事計画(案)について(3)平成30年度児童館の子育て支援(案)について異議なしということでしょうか。</p> <p>では、原案通りでいきたいと思います。</p>

(資料7)

続きまして、4その他(1)(仮称)小牧市こども未来館整備基本構想(案)のパブリックコメントの実施について説明を申し上げます。

前回の7月の運営委員会では、ラピオにこども・子育て関連施設を整備すること、そして施設整備にあたっては「子育て支援の拠点」と、「こどもが主役となる拠点」を整備して、すでにあるえほん図書館と合わせて、(仮称)こども未来館として基本構想を策定し、整備を進めていくということをご報告させていただいております。

この度、基本構想案が整いましたので、2月7日～3月8日の間で、この構想案について市民の方から広く意見をお聞きするために、パブリックコメントを実施しております。構想案については、市役所、各市民センター、都市センター、ゆうゆうせいぶ、ふらっとみなみ、市のホームページで閲覧することができます。主には、「こどもが主役となる拠点」となる施設が目指す方向性や、管理運営を行なっていく上での指針となるものであります。

作成にあたっては、中高生、保護者、有識者によるワークショップや、児童館来館者へのアンケートを実施しながら進めてまいりました。それらの検討結果については、多くのページを割いて載せております。本日は時間の都合上、概要について説明させていただきます。

構想案の目次のページをご覧ください。まず、第1章では、前提条件の整理と致しまして、こどもを取り巻く社会環境や、市内のこども・子育て関連施設の状況などを整理しております。また、市民ニーズを把握するとして、保護者、中高生、有識者によるワークショップや、児童館利用者を対象にしたアンケートの結果の集計と、(仮称)こども未来館における必要な視点などをまとめております。

そして第2章では、基本理念を確認しまして、それを基に第3章で(仮称)こども未来館に導入していくと考えられるコンテンツや活動内容の検討を行なっております。

そして、第4章・5章では施設の整備方針として、既存施設の改修方法や、施設のゾーニング、施設の規模、そして管理運営の方向についての検討を行なっております。

以上が構想案の構成となっております。

それでは、26ページをご覧ください。こども未来館の施設コンセプトとして3つの基本理念を掲げています。「こどもの夢への挑戦を応援する施設」「こどもを中心に世代を越えて市民がつながる施設」「こども・子育ての中核となる施設」この3つを基本理念として掲げています。

次に、27ページでは、(仮称)こども未来館の基本理念をどのように展開していくかということを図にして示しております。

「子育て支援の拠点」「こどもが主役となる拠点」「既存施設」のえほん図書館、これらを再構築して4つのゾーンで構成していくと考えています。

「体を使って遊び、学ぶ」「自由に活動して学ぶ」「展示・コンテンツを見て学ぶ」「体験することで学ぶ」以上4つのゾーンで構成していきます。

そして、それぞれのゾーンを色分けしまして、72～74ページにゾーニングの案として掲載しております。「体を使って遊び・学ぶ」ゾーンは2階・3階のオレンジ色の部分、「展示・コンテンツを見て学ぶ」ゾーンは3階の黄色の部分、「体験することで学ぶ」ゾーンは4階の青色の部分、そして既に施設はあるのですが、「自由な活動の場」のゾーンとして緑色に色分けしております。全体として2～4階にかけて約8,000㎡を整備範囲としています。

パブリックコメント終了後は頂いた意見を検討し、必要があれば構想案を修正するなどして、今年度末までに基本構想の策定を進めてまいります。今

	<p>後の進捗状況については、運営委員会でご報告させていただきます。          以上で説明を終わります。なにかご意見・ご質問等ありますでしょうか。</p>
委員長	<p>例えば「体を使って遊び・学ぶ」ゾーンは、72ページの下に掲載のあるような写真の施設が入ってくると考えてよいですか。</p>
司会	<p>はい、そうです。各階のフロア図の下に載せた写真については、他の施設の参考事例として載せましたが、写真にあるような大型遊具などを入れていきたいと考えております。</p>
副委員長	<p>確認ですが、子育て世代包括支援センターには、児童センター、支援センター、保健センターの一部部門が入るということでよいですか。</p>
司会	<p>はい、そうです。こちらの子育て世代包括支援センターは、妊娠期から子育て期の親子を支援する場所として、中央子育て支援センターの機能に加え、母子保健型という相談機能を追加した形で進めていきます。          少年センターと、子育て世代包括支援センターのあるピンクの部分が先行整備を進めていく部分になります。児童センター・支援センターはこの場所に引越しとなります。</p>
司会	<p>その他ご意見ご質問等ありましたらこども政策課に頂ければと思っております。</p>
	<p>最後に1点ご報告させていただきます。小牧児童館、西部児童館について、平成30年3月31日をもって指定管理委託が完了するのに伴い、今年度、児童館指定管理者選定委員会で指定管理者を選定しました。          その結果、平成30年4月1日から小牧児童館・西部児童館ともに小学館集英社プロダクション・ダイケングループに引き続き指定管理を委託することとなりましたので、ここでご報告させていただきます。          その他全体を通してご質問等はございませんか？</p>
司会	<p>それでは、以上で本日の議題は全て終了させていただきます。          これをもちまして、平成29年度第2回小牧市児童館運営委員会をさせていただきます。          本日はありがとうございました。</p>